



国際情報報

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第18号

〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuiis.ac.jp URL http://www.nuiis.ac.jp



しなやかな力を培つて、
大きく踏み出す
新しい未来への一歩。

平成15年3月20日(木)午

後1時より、新潟市民芸術文化会館において平成14年度卒業式が、晴れやかに、厳かに執り行われました。情報文化学科一〇九名、情報システム学科一六五名の計二七四名が、この春、本学から社会へと果立ちます。

式典には父兄も多数列席。

学位記授与では卒業生全員の氏名が呼び上げられ、各学科総代が学位記を受け取りました。武藤学長の祝辞、学生表彰と続き、最後に情報システム学科の佐藤良秋さんが卒業生代表として答辭を述べました。

午後6時からはホテル新潟で学生主催の卒業記念パーティが開かれ、希望に満ちた新たな門出をにぎやかに祝いました。

學長告辭



新潟国際情報大学長
武藤 輝一

本日、多数のご来賓並びにご父兄にもご臨席頂
新潟国際情報大学、情報文化学部、情報文化学
科、情報システム学科の卒業生の皆さん、ご卒業お
めでとう。

き、第6回新潟国際情報大学卒業式を挙行できますことは、卒業生の皆さんはもとより、本学にとりましても喜ばしい限りであります。この日を迎えた卒業生の皆さんに、またご父兄の皆さんに新潟国際情報大学の役員、教職員を代表して、心からお祝い申上げます。また、本日ご出席の父兄の皆さんには、晴れの卒業式でご子弟を目の前にされ、お喜びはいかばかりかと推察申上げております。この度の本学の卒業生は、情報又化学科一〇九名、情報システム学科一六五名、合わせて二七四名であります。このように溌剌と希望に溢れ、前途有為の皆さんを送り出すことが出来ますのは、新潟国際情報大学にとりましても大きな誇りであります。

皆さんが本学に入学されてから満四年の月日が経ちました。早いものです。

“歳月人を待たず”という実感であります。学生生活の毎日は悔いのない有意義のものでしたでしょうか。皆さん、それに沢山の思い出があります。この思い出は巡り来り、懐かしさほほえぬ事であります。これから新しい道に、一抹の不安があるかもしれません、皆さんには若いのです。逞しき意志、燃ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、を十分に發揮して強固な信念の下で、皆さん自身の道を作り上げて下さい。

本学は間もなく開学十周年を迎えることになります。本学は大学設置基準の大綱化という新しい波の中で生まれ、近くまた、教育基本法の改革の波

を受けることになるかと思いますが、情報化、国際化時代を担う人材の育成”という大学創設の目的には変わりなく進んでまいりました。卒業生の皆さん、卒業して本当に良かったと思い、誇りに思う事が出来る大学であるべく、教職員の皆さんも在学生の諸君も努力を続けます。幸い、新しい市街地キャンパス内には同窓会の部屋も作られます。卒業生の皆さんには、これからの方々の貴重な経験を通して、本学並びに後輩諸君のため、大いにご助言頂きたいと存じております。

平成十五年三月二〇日
ました。本学の校庭の櫻が咲く頃には、皆さんは、もう社会人として希望に溢れ、元気に活躍していく事でしょう。蘇軾の「別歳」の中に、「人行くも、なほ復すべし、歳月なんぞ追うべけんや」とあります。皆さん、「これから的人生の一日一日を大切に、かつ有意義に過ごされる事を希望しますと共に、ご卒業を心からお祝いし、前途に幸多かれと祈り、皆さんを送る言葉と致します。

理事長祝辭



学校法人 新潟平成学院 理事長
小澤 辰男

皆さんには平成十年四月入学し、日本大学卒業の日を
迎えました。この四年間優秀で個性豊かな教授陣授業
と恵まれた教育環境の中で多くのことを学ばれました
と思います。中国、アメリカ、韓国、ロシアそしてカナ
ダに派遣している海外留学も含め、それぞれが
これから的人生に役立つ数多くの新しい出会いを
経験し、友人、知人の輪も広がったはずです。在学
中に学び、培った力を実社会で存分に発揮し、それ

皆さんが実社会でそれぞれの信念に基づいて力強く生き抜き、充実した人生を歩かれるよう期待いたします。

本学は平成六年開学いたしました。多くの方々にご支援をいただいての出発でした。英語の習得に加え、ロシア、中国、韓国など口岸諸国の言葉や文化を学ぶ大学、理系文系の枠を外し、「コンピューターネットワークの進展に合わせた新しい情報活用法を学ぶ大学、環日本海の時代に、地域として積極的に取り組んできている新潟から、時代が求めめる「国際化に生き、情報化を活かす」若い人材を育てよう。新潟国際情報大学設立に向けての思いはこうしたものでありました。

大学をじりまく大変厳しい環境の中で、本学は、今年開学十年の節目の年であります。情報センタ一棟増築に加え、六月には旧新潟中央銀行跡地に市街地キャンパスが開校いたします。市街地での立地の特性を活かした教育研究の展開や国際交流など、本学の新たな歴史を刻んで参ります。市街地キャンパスには同窓会の部屋が設けられ、卒業生が集まるスペースを用意いたします。また起業にチャレンジする若者が共同で研究できる場になつて欲しいとも願つております。本日卒業される皆さんにむかって、新たな門出にあたり改めて、心からのお祝いと、さらなる活躍を祈念して挨拶をいたします。

いま、皆さんのが新しく船出する日本社会は極め

平成十五年二月一〇日

学校法人 新潟平成学院

事長 小澤辰男

卒業生のことば

卒業生のこどもば

* 情報文化学科 加藤 玲子

もししておには臣がたの...」もう悪いた御強いです。4年間を通して学んだことは多く、良い友人や先生に出会えて、とても自分は幸運だと思ふ。ついでに、ナビゲーションについて、今度は

会である今、大学で学んだ知識を生かし、意味のある人生を歩もうと思っています。

最後に「4年間お世話になりました先生方、楽しくパワフルな授業をありがとうございました。国情生であったことを誇りに、社会人としての第1歩を踏み出そうと思います。

よつて、ゼミ内の親ばくがより深まり、充実した大学生活を送ることができたと思います。

社会に出る歩手前の今の時期になつて、卒論や就職活動を通して自分の未熟さを感じ、人間性や知識など様々な面で自分は勉強が必要なことに知りました。「それに気付いたための大学生泊」だったのかもしません。こうした気持ちをハネに、無理難題にも食い下がつて頑張れるよう、強い心を身に付けていければと思います。

卒業するにあたって、今日の私があるのは、先主方ははじめ事務の職員の方の御指導と御協力を頂いたからだと思っています。また、友達や部活の先輩や後輩にも恵まれ、楽しい有意義な学生生活を送ることができたことに感謝しています。そして、4年間いろいろな面で支えてきてくれた両親にありがとうといふ気持ちでいっぱいです。

* 情報システム学科 伊藤 正博

4年間の大学生活を振り返ると、大学生活というのには「自由」であった。講義を自由に選択でき、将来のために努力する時間もあった。「自由」と云ふとマイペースに生活でき、どこか楽なイメージがあるが決してそうではなかつた。4年という時の中で、時に自分自身に甘えてしまい気付くと多くの時間を無駄に使っていた。そんな自分に反省し、その中で「自由」の中で生活していくには目標をしつかり見据え、決して自分に妥協することのない強い心が必要であると実感した。

さです。授業は高校までは遅い、履修して講義を受けましたが、自分で理解できなかつた部分を友達に教えてもらつたおかげで無事乗り越されました。また、生活面においても大学に入つてから自分の時間が多くなつたため、友達と話をする機会も増えました。辛いことや樂いことをお互いに聞き合つことで、私にとって大きな心の支えになつていきました。

社会人になると生活が変わり、大変なことがたくさんあると思いますが、一人ではないことを心に置き、人間的にも大きくなつていきたいと思います。

結果的に目標を十分には達成する事は出来なかつた。しかし、そこから学んできた事は自分にとって大きな経験になつた。その経験を生かし次の目標に向けて突き進んでいきたい。

情報システム学科 横山 憲平
「4年間」があ…短かった。総日数365日×4年=1461日は数字で表すと多いけれど、4年前の入学式がつい最近だったような気がする。

大学生活を思い返すと、私はこの大学で様々な思い出を持つことができました。それら全てが貴重な経験で、私の学生生活はとても楽しく価値あるものとなりました。

一番感動的な思い出はアメリカへの留学です。一週間というわずかな時間の中においても得たものは大きく、日米の違い、さらに普段気付くことのなかった日本の文化についても知ることができました。また、バスポートを持つことで世界の国々が身近に感じられ、地球上には様々な国が存在するのだと改めて実感しました。国際社会

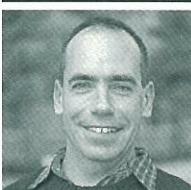
大学生活を振り返るとあつという間の4年間でした。最も印象に残る思い出は、4年の夏に行つたゼミ合宿です。秋田、青森への2泊3日の合宿と、北海道への計4泊5日の旅はとても思い出深いものになりました。秋田、青森では、他のゼミ生との合同合宿で皆と協力し合い、夕飯を作つたり、花火をしたりと大いに盛り上がり、いろんな人と触れ合つことができました。その後は私たちのゼミ生のみで、北海道への旅を計画し、青森からフェリーに乗り、函館を観光しました。函館の夜景はとても綺麗で、ゼミの皆で楽しい時間を過ごすことができました。今回の旅行に

うではないだろだろうか。課題提出、国家試験英語スピーチ「コンテストなど、大変だったことを挙げればきりがないが、それ以上に楽しかったとのほうが多い。黒字を目指してやった学園祭の模擬店準備、他大学の学生との交流会、そして部室に泊まりこんで練習したドラマ「コンテストは大変だったにもかかわらず、楽しい思い出になつてゐる。

またここで出会えた多くの仲間や色々なことを教えてくれた先生は特にこの4年間で切つても切り離せない存在だ。今度は、社会人一年生であるが、大学のことを思い出すと在学生が羨ましく思える。

退職教員

本年度をもって情報システム学科 正田達夫教授、安達巧助教授、CEPインストラクター David Jeffrey先生が退職されます。



David Jeffrey
(Communicative English
Program·CEP Instructor)
《在職期間》
2000年4月～
2003年3月



正田 達夫
(情報システム学科教授)

"To all the staff and students of NUIS, I wish you all the very best of everything for the future. Thank you for a very enjoyable experience in CEP.

I hope the students will continue to use the English they learned in CEP, and that it will contribute to the success of their future international careers in the global village that the world has now become. This is not good-bye, just so long. See you again some time. Take care, and if you come to Tokyo please visit us, it will be great to see you all again".

● 今後の予定

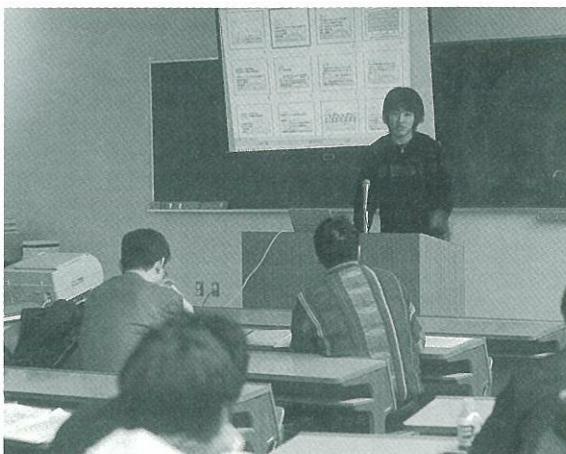
- 今後の予定
約40年間のビジネスマンとしての経験を生かして、この大学で9年間マーケティングを伝えて来ました。また、その間に広告管理とインターネット広告について研究を続けてきました。これからも、これらの研究は続けたいと思いますし、ライフワークのチーズ・マーケティングも将来はよとめたいと願っています。

シニアの方へインターネットを教

- NUiSに勤めて嬉しかったこと
 - 学生の卒業研究を通して、多くのことを学ぶことができたこと。さらに嬉しいことは卒業生が仕事をのなかでマーケティングを活用して活躍していることです。また、ナリやECSの卒業生など多くの友人を助けてくれたことがあります。

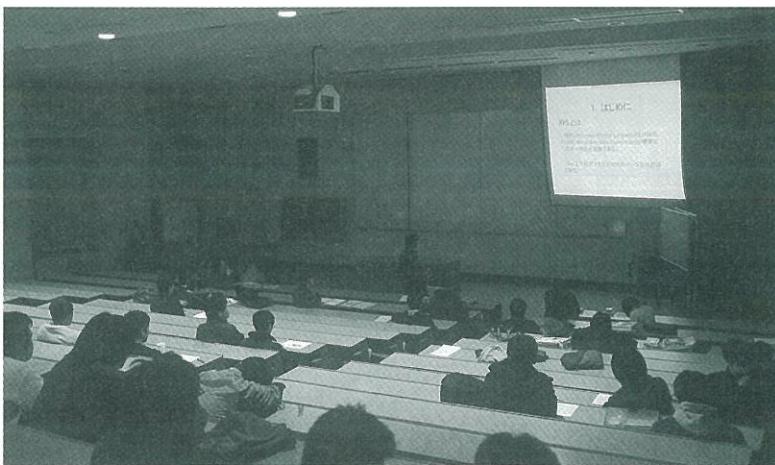
●学生へ向けてひとこと

●学生向け [\[ここ\]](#) 人生を樂しくするのは、「**ビジョンと目標**」です。皆さんも仕事や趣味の分野ごとに、ビジョンを持ち、また年間・月次の目標を立てて前進することをお勧めします。



去る一月七日(金)・八日(土)の二日間、「一〇一年度情報システム学科卒業論文発表会」が開催されました。現代は今まで以上に「問題を見出し、改善提案を示す」、「現行よりも改善提案の方が望ましいことを実証・論証する」という情報創造・研究能力が求められる時代となりました。昨今、卒業論文を選択科目にしている大学も少なくありませんが、本学は「この能力の育成を重視し、卒業論文を必修科目としております。

また同時に、自分の成果を適切に「プレゼンテーション」することもますます求められるようになりました。本学は年次より「プレゼンテーション」を重視した教育プログラムを実施しております。情報システム学科では各自が、講義・演習等で培った情報創造能力「プレゼンテーション」能力の「集大成」として、全員が研究発表を行います。本学科は研究分野が多岐にわたっていることから、分野が隣接する「研究室」として、発表会を開催しております。本年度は一日間で十会場、ほぼ二十名ずつに分かれ発表会を行いました。



情報システム学科専任講師 小畠山智志

「情報システム学科卒業論文発表会」は、各自の研究を伝えるために、何度も練習を行ない、またプレゼンテーション用のソフトウェアを活用していました。

また発表の後に、質疑応答が二分間あり、質問者・回答者、いずれも臨機応変な対応能力・理解力が試されます。司会進行も学生同士交代で行われました。

すべての発表会に参加することはできないのですが、私が参加した会場では、熱い議論が六時間にわたって交わされました。緊張したためか、実力を発揮しきれない場面もわずかにございましたが、大学生として充分な能力を身につけていたことが見て取れました。「もう私の出る幕はない。皆さん立派に人立ちました」と実感できたばらし発表会であったことをここで報告申し上げます。

講義紹介

「地域研究特論A」(情報文化学科三年専門科目)

情報文化学科専任講師 安藤 潤

「一〇一年度後期・火曜5限に情報文化学科専門科目として三年次生を対象に「地域研究特論A」が多く関係者の方々のご理解・協力をいただき、初めて開講されたに至りました。同科目は文化学科専任教員1名がコーディネーターとなり、基本的に登録した学生が主体となって全体及びグループ別テーマを決め、担当の講師を学内・学外から選び、学生が自分たちの手で作り上げるという形式をとっていますが最大の特徴です。

「一〇一年度は「分断を超えて」を全体テーマとし、それを4グループに分け、本学情報文化学科専任教員18名のうち10名とインストラクター1名が講師あるいはパネリストとして参加しました。また、学外からもお忙しい中、2名の方にも講師を務めていただきました。

担任グループの学生は相応な時間を割いてアンケートや調査、資料作成といった準備を行い、学外講師招聘に当たっては学生自身が交渉してそれを実現しました。それだけに学生むけややさされるのではなく、やりたいからやっているのだという気持ちが大事」といっておられます。実際、私もパネリストとして参加しましたが、受講していた学生の知的好奇心に満ちた真剣な眼差しが非常に印象的でした。グループ内で手分けして、時間がたつのも忘れ夜中まで勉強し、友達と納得いくまで幾度も議論し合ひ、時間はかかるでも疑問を一つ消化していくことがこんなに面白いことなのだと、主体となって学ぶことの楽しさを久しぶりに思いました。

「ゼミ以外のテーマを自分から取り組むことは貴重かつ楽しかった」という学生の感想からも充実感が感じられると思います。

まだ改善の余地が残されているとは思いますが、「一〇二年度以降も情報文化学科としてできる限りの協力を惜しまず、この講義をより「層発展させていきたい」と考えております。

「生産情報システム」(情報システム学科)一年専門科目)

情報システム学科専任講師 佐々木 桐子

「生産の領域(生産の場)」は、言葉だけでは非常に伝えにくく、また大変伝わりにくいものです。実際の現場に足を運び、現場を見て、携わる人の声に耳を傾けるのが一番の勉強になりますが、残念ながら講義の中ではすべての履修生(毎年約200名)にこのような機会を平等に与えることは非常に困難です。そこで、「生産情報システム」の講義では、「このような「生産の領域(生産の場)」に対し、興味や問題意識を抱く動機付けとなるよう、次のような授業作りをしています。

前半は、身近な例や問題をとりあげながら、生産情報の処理プロセスを理解し、生産の運用に関する諸手法を習得していきます。限られた講義時間(1時間30分間)を、「書き写す時間」として消化してしまつではなく、問題を与え、それを「考える時間」、「自分の解く時間」として費やす授業構成をしています。

後半は、生産の運用をより現実的に再現することを目的として、シミュレーション手法を活用します。履修生自ら、コンピュータ上に仮想(わくしょく)な既存の生産システムのモデルを構築し、円滑な生産に向けたさまざまな提案を行います。本授業で使用するシミュレーションソフトは、それほど高度なプログラミング技術を必要としません。そのため、1回の講義の中で使い方を説明すると、自ら小規模な生産システムを構築できるようになります。仮想的な空間かつ小規模ではありますが、自ら生産システムを構築できること、その構築された生産システムが実際に動き出す(アニメーション)として実際に動きを確認することができます。ことへの感動と喜びを味わう事ができます。

このように、「生産の領域(生産の場)」を、一歩を活用しより伝わりやすくなることで、「生産の領域(生産の場)」への興味や問題意識を抱く動機付け、教育を実現する事が、この授業の特色といえるのかもしれません。

二〇〇二年度留学帰国報告会

国際交流委員長
情報文化学科教授

區 建英

竹並ゼミ、産業活性化会議 優秀賞受賞

情報システム学科4年 玉木 文子（文責）
情報システム学科4年 大澤麻梨子

本学は平成12年度から派遣留学・海外夏期セミナーの実施を始め、13年度まで計一四名の学生を海外に派遣し、良好な教育効果を得た。14年度も引き続きこの制度を実施した。情報システム学科の海外夏期セミナーでは、カナダ・アルバータ大学に約5週間16人を派遣し、情報文化学科の派遣留学制度では、アメリカ・ノースウエスト・ミズーリ州立大学に約5週間13人を、また韓国・慶熙大学に10人、中国・北京師範大学に17人、ロシア・極東国立総合大学に3人を、それぞれ約4ヶ月派遣し、計59名の学生を送り出した。全コースの参加学生とも、留学先の国々で毎日新しい発見をし、語学や知識の習得、異文化体験、国際交流などの面において多くの成果を収めた。

海外での勉強を終え大学に戻ってきた学生諸君を迎える激励するために、平成15年1月15日に留学帰国報告会を開催した。そこで、カナダコースの代表は英会話ばかりではなく、ホームステイによる身近な国際交流や、情報学関連の勉強と企業訪問による北米社会への理解などの成果を語った。

アメリカ・コースの代表は、日本人以外の外国留学生と一緒に勉強し、様々な地域特色を実感し、諸国の人々と英語

で交流できたことを述べた。韓国コースの代表は韓国の生活環境の中で語学力がとても早く上達し、韓国語を共通語として中国人やロシア人ととも交流し、諸国の文化や価値観を学ぶことができたと述べた。中国コースの代表は、歴史認識の壁を乗り越えて友好的に日本人と交流する中国人の姿、学習と生活上熱心に指導してくれる中国人教師の姿、町での様々な異文化体験を語った。ロシア・コースの代表は、現地で見た日本語スピーチコンテストについて、日本語日本文化に関するロシア人の教養の深さに圧倒されたと感想を述べた。

各コース代表の内容豊かな報告から分かるように、学生諸君は海外体験を通して、語学の上達はももちろん、国際感覚が養われ、見識が増え、人格形成の面でも大きく成長した。これらの留学成績は今後学生諸君の勉強や活躍に大いに役立つであろう。

新潟市産業活性化学生会議が、学生に新潟の産業に興味を持つてもらうことを目的として開催されました。会議の中心は学生による提言発表で、1月16日に「地域のニーズをビジネスに」という題目で学生らしい独創的な提言が七件発表されました。

私達は近年、学生が地元地域との関わり合いが「薄い」という問題に着目し、インターネットを利用して地域や企業に對して貢献できる学生パワーを紹介する「オンラインビジネス（出会い系サイト）」を通して、学生が地域と共にしていくという事を目的とした「双方向で地域と学生を結ぶ（University）to（Community）Web」を提案しました。提言に説得力をもたせる為に、学生アンケートや地元地域の方にヒヤリング調査をし、市場性（ニーズ）、市場から求められるビジネスモデル、採算性、ホームページサンプル、地域経済への波及効果を苦心して考案しました。その結果、現実に即した提言が評価され優秀賞を頂く事が出来ました。

資格取得奨励金授与式

在学中にさまざまな資格試験に挑戦しようという学生たちを、N.U.I.Sでは積極的にバックアップしています。資格取得や認定試験などの情報提供はももちろん、資格取得者への奨励金も出しています。その奨励金の授与式が、平成15年1月15日に行われました。

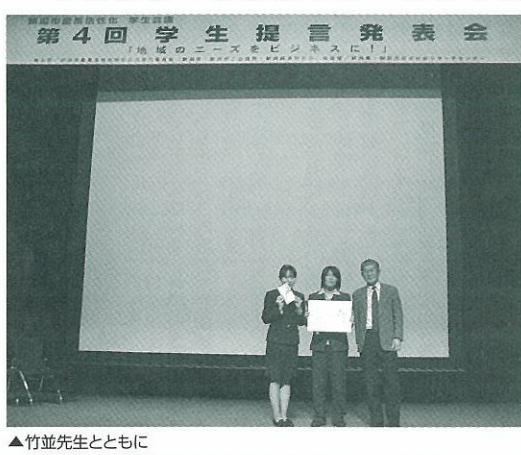
緊張している人もいれば、お金を持たうてうれしそうな人もいて、反応はそれぞれ。

資格を取得できた皆さん、おめでとうございました！



下の表は今回表彰された資格とその取得者数です。

種別	取得した資格	人数
I型	中国語検定2級	1名
I型	ソフトウェア開発技術者試験	2名
II型	日商簿記検定	7名
II型	中国語検定3級	10名
II型	ロシア語能力検定試験3級	1名
II型	TOEIC(IP)	1名
II型	初級システムアドミニストレータ	14名
II型	基本情報技術者試験	6名

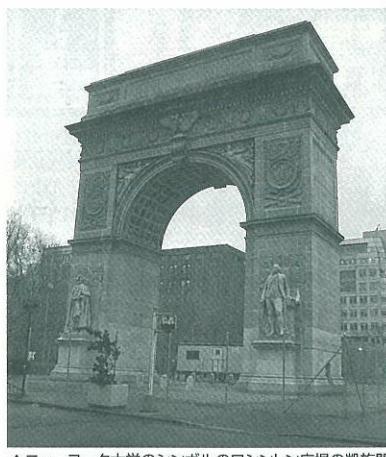


▲竹並先生とともに

平成14年度公認団体の主な活動成績

日付	団体名	大会名	開催場所	大会結果
4月12日	バドミントン	第46回北信越大学バドミントン選手権大会	石川	男子3部リーグ1位、女子1部リーグ3位(2部3部入れ替え戦にて2部昇格)
6月1日	陸上競技	第76回北信越学生陸上競技対抗選手権大会	福井	女子砲丸投げ3位 女子やり投げ優勝 幾野貴子
8月7日	バドミントン	第47回北信越学生バドミントン選手権大会	福井	女子ダブルス準優勝 岡／西須0(7-15 9-15)2安念／長澤(富大)
8月10日	陸上競技	第24回北日本学生陸上競技対校選手権大会	新潟市	男子4×400mR3位 (梅津弘明、武田善雄、小林利也、山之内浩)
8月31日	陸上競技	第46回北陸地域陸上競技選手権	石川	男子4×400mR3位 (山之内浩、小林利也、武田善雄、梅津弘明)
9月28日	バレーボール	第18回信越大学バレーボール大会	長野	予選リーグ出場
10月5日	陸上競技	第33回北信越学生陸上競技選手権大会	新潟市	男子400m3位 武田善雄 男子4×400mR3位 (梅津弘明、武田善雄、山之内浩、小林利也) 女子砲丸投げ2位 女子やり投げ2位 幾野貴子
10月18日	バスケットボール	第36回北信越学生バスケットボール選手権大会兼インカレ予選	相川町	2回戦敗退
10月24日	バレーボール	第50回秋季北信越大学バレーボール選手権大会	富山	――
10月26日	陸上競技	第86回日本陸上競技選手権リレー大会	神奈川	男子4×400mR予選出場
11月7日	バドミントン	第47回北信越大学バドミントン選手権大会	富山	男子2部リーグ2位、女子1部リーグ2位
11月10日	フィットネス研究会	第27回北信越パワーリフティング選手権大会	福井	90kg級 第3位 曽原啓太
11月17日	茶道	第40回学生茶会	新潟市	――
11月29日	ESS	HASSA Drama contest	新潟市	――
12月15日	フィットネス研究会	第20回全日本アームレスリング選手権大会	東京	男子ライトハンド 55kg級 上村一夫、90kg級 佐藤司 出場

どうしてNYは治安が良いのか
～海外研究のなかばに～
お伝えしたい。



▲ニューヨーク大学のシンボルのワシントン広場の凱旋門



情報文化学科助教授・在「ニューヨーク

越智 敏夫

一〇〇一年十一月から一〇〇三年一月までの教員の研究活動(ごく本から提示があつたのも)です。

〔出版〕

◎刈部恒徳特任教授

刈部恒徳・笛川寿昭・小山良一・田中芳晴「徹底解明 欽定英訳聖書初版マタイ福音書」
研究社、一〇〇一年十一月、共著。

◎正田達夫教授

「DAGMAR(国標)による広告管理」からインタラクティブ広告まで」
三恵社、一〇〇三年一月、単著。

11001年度 本学紀要出版案内

一〇〇一年三月、本学情報文化学部紀要第6号が出版されましたので、
その目次をご紹介します。

◇人文科学編

「満州国」における水豊ダム建設

廣瀬 貞三 助教授

◇社会科学編

日本における一資本の労働生産性上昇効果に関する考察

1990年代後半における一資本の貢献 安藤潤 講師

ECC環境立法の展開と共通意味世界の構成・社会構成主義の觀点から
異文化の衝突と融合 一中国近代文化に関する歴史的構成・社会構成主義の觀点から

白井 陽一郎 助教授

誰がテロリストを裁くのか? 一合衆国軍事委員会と国際人権法 一
区 建英 教授

熊谷 卓 講師

三条・燕市製造業者間のデジタルデータベース
小宮山 智志 講師

藤瀬 武彦 助教授

広告としてのウェブサイトとインターネットの現状と問題点
一血中乳酸値及び運動能力の回復から

正田 達夫 教授 塚田 真一 助教授

短時間激運動後の回復期における高濃度酸素ガス吸入の効果
一企業のウェブサイトの現状と問題点

藤瀬 武彦 教授

△情報システム編
△自然科学編
△社会科学編
△情報システム編

地方私立大学における一IT利用に関する考察
一新潟国際情報大学における事例考察
桑原 悟 助教授

二つの「交換型突然変異」の発想の必然性

樋口 光明 助教授

教員の研究活動

始まりは、大徳寺の和尚様との
出会いからです。

高梨 洋平

(情報文化学科 平成12年度卒)



▲表千家半床庵 宗家(左)と玄関にて

私が、茶道を始めたのですから、異文化に接触するときが身近で、馴染みがあると思ったほどです。そのような文化が日本の文化のほうへと受け入れられるシヨックな環境で育ったことのなかから私の茶道に対する理解が深まっています。京都に来てから私の体験は、外国に行つたときよりも大きな衝撃の連続がありました。自国でありながら、まさに異文化の世界でありました。

茶道は文化そのものであり、全てが美意識を高めたところで融合されたものでありますから、建築・書・絵画・花・料理・道具の扱いや、庭・和漢の文学・歳時にもたらした様々なものに対し、精通していなければなりません。いくら勉強してもこれで終わりということがなく、毎日多くの書物に目を通し日々の生活に意識を高めていかなければ積み上がりません。それが魅力があり、様々な視点から楽しみを見出することができます。専門家とはまた異なる、茶人の意見を持つところが面白いです。

領域の重ならない、まさにプロとしての技量が問われる点は、点前の研究でありまして、現代に伝わづきている茶の点前を師匠として伝授することにあります。そうは言つても、茶道は点前がすべてではなく、能や生け花などと少し異なり、単に技のみでない先に述べたような背景にあるものや、精神性など、その者の理解や解釈により、茶に対する思いが異なりますから、いろいろな形の茶が存在します。伝統的な利休の道統を理想とするもの、風流で流儀にこだわらない茶数寄。そして学校茶道です。

平成15年度卒業生主な就職先一覧表

アークランドサカモト(株)	元気寿司(株)	(株)田代	(株)ひらせいホームセンター
アークランドサービス(株)	興栄信用組合	中越運送(株)	フィールズ(株)
(株)アールインターナショナル	浩庸(株)	中越通運(株)	フジフューチャーズ(株)
(株)IHS	(株)コグマ	鶴木(株)	(株)船栄
アイピー企画グループ	コニカNC(株)	東光商事(株)	ブリヂストンタイヤ新潟販売(株)
明石被服興業(株)	(株)サイクロンシステムズ	東芝情報システム(株)	(株)プレスメディア
星(株)	サイバーコム(株)	東テク(株)	(株)文教センター
味の素システムテクノ(株)	(株)佐久間組	(株)東横イン	防衛庁自衛隊
(株)飛島フーズ	(株)シアンス	(株)トップカルチャー	ホーク電子(株)
(株)アーテナ	CEC新潟情報サービス(株)	(有)ト拉斯ティック	(株)北越ケーブス
アビバグループ	(株)JTBツアーズ	(株)ナカムラ	ホテルサンルート新潟
いからし小児科	(有)シグムコンピュアソリューションズ	(株)名古屋三越	(株)ホンダ四輪販売新潟
板倉町役場	シティファイナンシャル・ジャパン(株)	(株)新潟市役所	本間東邦(株)
イワツキ(株)	(株)芝通	新潟証券(株)	(株)マックス
(株)インフォメーション・ディベロメント	(株)ジャパンネット	新潟学習社	(株)マルイ
(株)ウイング	白根市農業共同組合	新潟グランドホテル	マルコ(株)
(株)ウォロク	(株)真電	新潟県警察	丸三証券(株)
越後さんとん農業共同組合	(株)スーパーツチダ	新潟市役所	丸新産業(株)
えちご上越農業協同組合	(株)すかしらーく	(社)にいかた新生園	(株)三ツ葉バーツ
越後中央農業協同組合	スミック長岡硝子(株)	新潟ゼロックス(株)	(株)源川医科機械
NECソフト(株)	(株)星光堂薬局	新潟綜合警備保障(株)	明和工業(株)
エヌエスアドバンテック(株)	セコム上信越(株)	新潟トヨカク自動車(株)	(株)メガネット
NSGグループ	セントラル商事(株)	新潟トヨペト(株)	山文大同青果(株)
(株)エフエスシー新潟	(株)慈研システムズ	新潟日産自動車(株)	(株)湯沢グランドホテル
(株)エム・アイ・ディ・ジャパン	(株)ソネット	新潟リコ(株)	(株)ゆもとや
(株)エムテートリマツ	ソフトウェア興業(株)	日本生命保険(相)	(株)吉野家ディーアンドシー
ELBEC教科書センター(株)	(株)第一印刷所	日本赤十字社	(株)ヨーバシカメラ
(株)遠藤製作所	第一企業(株)	(株)ニューズライン	(株)ライズ
(株)雅糸苑	ダイエー建設(株)	(株)ハートフレンド	らう造景(株)
(株)カワチ薬品	(株)高助	(株)ハーモック	(株)リオンドールコーポレーション
関越ソフトウェア(株)	(株)タカヨシ	(株)原信	(株)和田商会
木村紡業(株)	(株)キュービット	パワーズフジミ(株)	渡辺製作所(株)
(株)クリスタル	タクトシステムズ(株)	(株)BPM	(株)渡森
グローバリー(株)	(株)武富士	東新潟自動車学校	東日本旅客鉄道(株)
		東日本旅客鉄道(株)	

就職活動レポート

就職体験講座

現在、3年次生の就職活動は本格的に行われています。

その学生の支援の一環として、先月の2月9日(日)・10日(月)の2日間専門による「就職体験講座(模擬面接)」を開催いたしました。この「就職体験講座」は現在の厳しい就職活動に対し、自分自身を表現し採用試験に望む学生の興味ある企業のコーナーに積極的に足を運び、真剣に情報収集を行いました。

今年は比較的天候にも恵まれ2月間で、昨年同数の県内外企業二四社の人事担当者が出席。会場は学生の熱気で包まれていました。

学内合同企業説明会

毎年2月に開催する「学内合同企業説明会」。今年は2月13日(木)・14日(金)の2日間にわたりて本学体育館を会場に各社の企業説明や質疑応答などを行いました。学生たちは、自分の興味ある企業のコーナーに積極的に足を運び、真剣に情報収集を行いました。



編集後記に代えて

広報委員長 正田 達夫

第六期の卒業生おめでとうございました。

ご父母のかたには、大切に育てたご子息が令嬢が四年間の学習を終え、社会に飛び立つことになり、ほっとされていること存じます。

大学を卒業することは勉学の終わりではなく、真の学びの始まりです。英語では、卒業式のことを「commencement」といいます。この言葉は「開始する事」「始める」と同じ言葉です。

日本の経済は、ますます厳しい状況が続いているります。企業における待遇は年功序列制から能力給へ変わるでしょう。このような厳しい状況の中で、成長し、生き抜くには、常に初心を忘れず、学び続けることを続けるように、励まして下さい。

本学の市街地キャンパスも六月には完成し、九月からは、本格的な稼動がはじまります。この市街地キャンパスには市民の皆様が利用できる市街地キャンパスには市民の皆様が利用できるようにお勧めします。

市街地キャンパスには市民の皆様が利用できる市街地キャンパスには市民の皆様が利用できるようにお勧めします。

市街地キャンパスには市民の皆様が利用できるようにお勧めします。

どうぞ、社会人になつた卒業生もご父母のかたも、ご利用になつて下さい。

※四ページに書きましたが、筆者は今年で定年になり退職いたします。この九年間で、大学は種々の面で発展し、さらに今年は市街地キャンパスが開設され、画期的な前進の年となります。

大学ならびに読者各位のさらなる発展を祈るものであります。